

大阪市会情報公開条例に基づく審査請求に係る意見具申について

大阪市会情報公開審査委員会（会長 鶴田 勝紀）は、大阪市会情報公開条例に基づき、意見照会のあった不存在による非公開決定に対する審査請求について、令和5年7月11日（火曜日）、実施機関である大阪市会議長あて意見具申をしました。

意見具申では、実施機関が行った決定を取り消し、文書を特定し、公開等を決定すべきである旨を判断しています。なお、特定した文書については公開が妥当であると付言しています。

下記のとおり関連資料を添付します。

記

資料1 意見具申の要点

資料2 意見具申

資料3 大阪市会情報公開条例

資料4 大阪市会情報公開審査委員会委員名簿

資料 1

意見具申第 4 号	
1 公開請求の内容	
「R 5 年 2 月 22 日市会運営委員会の委員長のよみ原稿」との公開請求が、令和 5 年 2 月 28 日付けでありました。	
2 実施機関（＝大阪市会議長）の決定	
「公開請求に係る文書は、担当者が委員長への説明に使用するものであり、組織的に用いるものとして、議長が管理しているものではないため、大阪市会情報公開条例（以下「公開条例」という。）第 2 条で定義する公文書に該当しない」として不存在による非公開決定（以下「本件決定」という。）を、令和 5 年 3 月 8 日付けで行いました。	
3 審査請求の内容	
「請求文書は委員長への説明に使用したものであり、個人的メモには該当せず、仕事上利用されているので、大阪市会情報公開条例第 2 条に規定する公文書に該当する」として、令和 5 年 3 月 10 日付けで審査請求がありました。	
4 意見具申の結論	
本件決定を取り消し、「R 5 年 2 月 22 日市会運営委員会の委員長のよみ原稿」に係る公文書を「令和 5 年 2 月 22 日市会運営委員会の委員長の読み原稿」（以下「本件文書」という。）と特定したうえで、公開等の決定をすべきである。	
5 意見具申のポイント	
審査委員会は、次の理由により、上記 4 のとおり判断しています。	
ア 公開条例第 2 条の基本的な考え方	
公開条例第 2 条において、公文書とは、「大阪市会事務局の職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録であって、事務局の職員が組織的に用いるものとして、大阪市会議長が管理しているものをいう。」と定め、ここで、「事務局の職員が組織的に用いるものとして、議長が管理しているもの」とは、作成又は取得に関与した職員個人の段階のものではなく、組織として共用文書の実質を備えた状態、すなわち、事務局の組織において業務上必要なものとして利用・保存されている状態のものを意味すると解される。	
イ 当審査委員会が実施機関に本件文書についての利用・保存状態を確認したところ、次のとおりであった。	
・事務局の職員は、本件文書を、委員長が円滑に会議を進行するために、具体的には、各会派の市会運営委員や理事者から予め収集した情報をもとに想定される会議の流れを委員長に説明するために作成した。 ・事務局の職員は、本件文書を作成・印刷して委員長に提供しており、委員長に対し、本件文書に基づき想定される会議の進行を説明している。 ・本件文書のデータは、会議前に複数の事務局の職員が閲覧できる状態にあった。 ・事務局の職員は、本件文書のデータを、会議終了後も議事担当内の複数の	

職員が閲覧できるサーバーに保管していた。

ウ 本件文書の公文書該当性について

上記イの状況によれば、本件文書は、事務局の職員により議事運営に関する職務上作成されていることは明らかであり、会議前に複数の職員が閲覧できる状態にあったこと、また、議事担当内の複数の職員が閲覧できるサーバーに保管されていたことからすれば、事務局の組織において業務上必要なものとして利用・保存されている状態にあったと認められ、公文書に該当するといふべきである。

なお、印刷された本件文書は、会議の終了をもって事務上必要でなくなるが、本件決定時点においても、実施機関は本件文書のデータを保有しており、本件文書が存在していないとは言えない。

エ 本件文書の公開について

本件審査請求では、公文書該当性のみが争点であるが、会議の読み原稿については、それぞれの会議等の審議対象、会議運営の態様、読み原稿の記載事項、その作成者、配付対象者などをもとに、公開条例第7条各号に規定する非公開情報に該当するかを個別に検討し、判断すべきものである。

本件文書について、本審査委員会において見分したところ、公開条例第7条各号に規定する非公開情報に該当する情報はないため、公開が妥当である。

※本意見具申の詳しい内容は資料2をご覧ください。

資料 2

大市情審意見具申第 4 号
令和 5 年 7 月 11 日

大阪市会議長 片 山 一 歩 様

大阪市会情報公開審査委員会
会 長 鶴 田 勝 紀

大阪市会情報公開条例第18条に基づく審査請求について（意見具申）

令和 5 年 4 月 7 日付け大市会第 4 号をもって意見照会のありました件について、次のとおり意見具申いたします。

第 1 審査委員会の結論

大阪市会議長（以下「実施機関」という。）が令和 5 年 3 月 8 日付け大市会第324号により行った、不存在による非公開決定（以下「本件決定」という。）を取り消し、「R 5 年 2 月22日市会運営委員会の委員長のよみ原稿」に係る公文書を「令和 5 年 2 月22日市会運営委員会の委員長の読み原稿」（以下「本件文書」という。）と特定したうえで、公開等の決定をすべきである。

なお、本件文書は、大阪市会情報公開条例（平成13年大阪市条例第24号。以下「公開条例」という。）第 7 条各号に規定する非公開情報に該当する情報はないため、公開が妥当である。

第 2 審査請求に至る経過

1 公開請求

審査請求人は、令和 5 年 2 月28日に、公開条例第 5 条の規定に基づき、実施機関に対し、「R 5 年 2 月22日市会運営委員会の委員長のよみ原稿」（以下「本件請求文書」という。）の公開請求（以下「本件請求」という。）を行った。

2 本件決定

実施機関は、本件請求に係る公文書を保有していない理由を次のとおり付して本件決定を行った。

記

上記請求内容の文書は、担当者が委員長への説明に使用するものであり、組織的に用いるものとして、議長が管理しているものではないため、大阪市会情報公開条例第 2 条で定義する公文書に該当しない。

3 審査請求

審査請求人は、令和5年3月10日に本件決定を不服として、実施機関に対し、行政不服審査法（平成26年法律第68号）第4条第1号に基づき審査請求（以下「本件審査請求」という。）を行った。

第3 審査請求人の請求内容

審査請求人の請求内容は、次のとおりである。

1 審査請求の趣旨

処分の内容に納得できない。

2 審査請求の理由

請求文書は委員長への説明に使用したものであり、個人的メモには該当せず、仕事上利用されているので、大阪市会情報公開条例第2条に規定する公文書に該当する。

第4 実施機関の主張

実施機関の主張は、おおむね次のとおりである。

1 市会運営委員会について

市会運営委員会は、議会の運営に関する事項の調整等を行うため、大阪市の会委員会条例（昭和31年大阪市条例第28号）第3条の規定に基づき設置されている。委員会の議事は委員長により進められ、会議後には委員会記録を作成し、市会ホームページで公開している。

2 本件文書について

本件文書は、委員長が委員会の議事を進めるにあたり、担当者が委員長へ説明する際に使用するものである。

公開条例第2条において「公文書」とは、大阪市会事務局（以下「事務局」という。）の職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）であって、事務局の職員が組織的に用いるものとして、大阪市会議長が管理しているものをいうと定められている。

今回、公開請求のあった本件文書については、委員長が円滑に会議を進行するために、担当者が各会派の市会運営委員や理事者から予め収集した情報をもとに、想定される流れを示したものにすぎず、委員長と担当者の間のみでやりとりするものであって、事務局の職員が組織的に用いるものとして大阪市会議長が管理しているものではない。

以上により、公開請求があった文書は、公開条例第2条で定義する公文

書に該当しないと判断し、本件請求にかかる公文書を保有していないことから、本件決定を行ったものである。

第5 審査委員会の判断

1 基本的な考え方

公開条例の基本的な理念は、第1条が定めるように、市民の公文書の公開を求める具体的な権利を保障することによって、本市会の説明責任を全うし、もって市会の諸活動を市民に説明する責務が全うされるようにするとともに、市会に対する市民の理解と信頼の確保を図り、広く開かれた市会を実現することにある。したがって、公開条例の解釈及び運用は、第3条が明記するように、公文書の公開を請求する市民の権利を十分尊重する見地から行われなければならない。

2 争点

審査請求人は、本件文書について、公文書に該当すると主張するのに対し、実施機関は、本件文書は公文書に該当しないため、本件請求にかかる公文書は存在していないと主張する。

したがって、本件審査請求の争点は、本件文書の公文書該当性である。

3 争点に対する判断

(1) 公開条例第2条の基本的な考え方

公開条例第2条において、公文書とは、「大阪市会事務局の職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録であって、事務局の職員が組織的に用いるものとして、大阪市会議長が管理しているものをいう。」と定め、ここで、「事務局の職員が組織的に用いるものとして、議長が管理しているもの」とは、作成又は取得に関与した職員個人の段階のものではなく、組織として共用文書の実質を備えた状態、すなわち、事務局の組織において業務上必要なものとして利用・保存されている状態のものを意味すると解される。

(2) 当審査委員会が実施機関に本件文書についての利用・保存状態を確認したところ、次のとおりであった。

- ・事務局の職員は、本件文書を、委員長が円滑に会議を進行するために、具体的には、各会派の市会運営委員や理事者から予め収集した情報をもとに想定される会議の流れを委員長に説明するために作成した。
- ・事務局の職員は、本件文書を作成・印刷して委員長に提供しており、委員長に対し、本件文書に基づき想定される会議の進行を説明している。
- ・本件文書のデータは、会議前に複数の事務局の職員が閲覧できる状態にあった。

- ・事務局の職員は、本件文書のデータを、会議終了後も議事担当内の複数の職員が閲覧できるサーバーに保管していた。

(3) 本件文書の公文書該当性について

上記(2)の状況によれば、本件文書は、事務局の職員により議事運営に関する職務上作成されていることは明らかであり、会議前に複数の職員が閲覧できる状態にあったこと、また、議事担当内の複数の職員が閲覧できるサーバーに保管されていたことからすれば、事務局の組織において業務上必要なものとして利用・保存されている状態にあったと認められ、公文書に該当するというべきである。

なお、印刷された本件文書は、会議の終了をもって事務上必要でなくなるが、本件決定時点においても、実施機関は本件文書のデータを保有しており、本件文書が存在していないとは言えない。

(4) 本件文書の公開について

本件審査請求では、公文書該当性のみが争点であるが、会議の読み原稿については、それぞれの会議等の審議対象、会議運営の態様、読み原稿の記載事項、その作成者、配付対象者などをもとに、公開条例第7条各号に規定する非公開情報に該当するかを個別に検討し、判断するべきものである。

本件文書について、本審査委員会において見分したところ、公開条例第7条各号に規定する非公開情報に該当する情報はないため、公開が妥当である。

4 結論

以上により、第1記載のとおり、判断する。

(参考) 意見具申に至る経過

年 月 日	経 過
令和5年4月7日	意見照会の受理
令和5年4月28日	実施機関からの弁明書の収受
令和5年5月10日	調査審議
令和5年5月26日	調査審議
令和5年6月12日	調査審議
令和5年7月11日	意見具申

資料 3

大阪市会情報公開条例

制 定 平13. 4. 1 条例24

最近改正 令 5. 2. 27 条例 1

目次

前文

第1章 総則（第1条－第4条）

第2章 公文書の公開（第5条－第17条）

第3章 審査請求

第1節 審査請求の手續（第17条の2－第20条）

第2節 大阪市会情報公開審査委員会（第21条・第22条）

第3節 委員会の調査審議の手續（第23条－第30条）

第4章 情報提供施策等（第31条－第33条）

第5章 罰則（第34条）

附則

地方分権時代において、地方議会を取り巻く環境は大きく変化しており、住民自治の根幹をなす地方議会も一層の活性化が強く求められている。

すなわち、地方分権の推進に伴い、執行機関を監視し、政策を立案し、当該団体の意思を決定する地方議会の役割と責任が強く求められるとともに、地方議会は住民の代表機関、意思決定機関として、これまで以上に住民の意思を反映した活動を積極的、効果的に行わなければならない。

大阪市会は、これまで会議はもとより委員会についても公開し、様々な議会情報を積極的に公開するなど努力を重ねてきたが、近年、さらに市民の「知る権利」をはじめ情報公開を求める気運が高まってきており、一層の市民参加の推進を図るため、市民の期待と要請にこたえていくことが重要である。

よって大阪市会はここに、この条例を制定することにより情報公開制度を創設し、市会に対する市民の理解と信頼の確保を図り、新たな時代にふさわしい開かれた大阪市会の実現を目指すものとする。

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、地方自治の本旨にのっとり、大阪市会（以下「市会」とい

う。)における公文書の公開を請求する権利を明らかにし、公文書の公開及び情報の提供等に関し必要な事項を定めることにより、情報公開を一層推進し、もって市会の諸活動を市民に説明する責務が全うされるようにするとともに、市会に対する市民の理解と信頼の確保を図り、広く開かれた市会を実現することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において「公文書」とは、大阪市会事務局（以下「事務局」という。）の職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）であって、事務局の職員が組織的に用いるものとして、大阪市会議長（以下「議長」という。）が管理しているものをいう。ただし、官報、公報、白書、新聞、雑誌、書籍その他不特定多数のものに販売することを目的として発行されるものを除く。

(条例の解釈及び運用)

第3条 議長は、この条例の解釈及び運用に当たっては、公文書の公開を請求する権利を十分尊重するとともに、個人に関する情報の保護について最大限の配慮をしなければならない。

(利用者の責務)

第4条 この条例の定めるところにより公文書の公開を請求しようとするものは、この条例の目的に即した適正な請求をするように努めるとともに、公文書の公開を受けたときは、これによって得た情報を適正に利用しなければならない。

第2章 公文書の公開

(公開請求権)

第5条 何人も、この条例の定めるところにより、議長に対し、公文書の公開を請求することができる。

(公開請求の手続)

第6条 前条の規定による公開の請求（以下「公開請求」という。）は、次に掲げる事項を記載した書面（以下「公開請求書」という。）を議長に提出する方法（これに準ずるものとして議長が定める方法を含む。）により行わなければなら

ない。

(1) 公開請求をするものの氏名又は名称及び住所、居所又は事務所若しくは事業所の所在地並びに法人その他の団体にあつては代表者の氏名

(2) 公文書の名称その他の公開請求に係る公文書を特定するに足りる事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、議長が定める事項

2 議長は、公開請求書（前項の議長が定める方法により公開請求をする場合にあつては、公開請求書に代わるものとして議長が定めるもの）に形式上の不備があると認めるときは、公開請求をしたもの（以下「公開請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。この場合において、議長は、公開請求者に対し、補正の参考となる情報を提供するよう努めなければならない。

（公文書の公開義務）

第7条 議長は、公開請求があつたときは、公開請求に係る公文書に次の各号に掲げる情報（以下「非公開情報」という。）のいずれかが記録されている場合を除き、公開請求者に対し、当該公文書を公開しなければならない。

(1) 個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することにより、特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

ア 法令、条例若しくは大阪市区会会議規則（昭和31年9月30日市会議決）（以下「法令等」という。）の規定により又は慣行として公にされ、又は公にすることが予定されている情報

イ 人の生命、身体、健康、生活又は財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報

ウ 当該個人が公務員等（行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成11年法律第42号）第5条第1号ハに規定する公務員等並びに大阪市住宅供給公社の役員及び職員をいう。）である場合において、当該情報がその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職及び当該職務遂

行の内容に係る部分

- (1の2) 個人情報保護に関する法律（平成15年法律第57号）第60条第3項に規定する行政機関等匿名加工情報（同条第4項に規定する行政機関等匿名加工情報ファイルを構成するものに限る。）
- (2) 法人その他の団体（国、独立行政法人等（独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。）、地方公共団体、地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。）及び大阪市住宅供給公社を除く。以下「法人等」という。）に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報であつて、公にすることにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの。ただし、人の生命、身体、健康、生活又は財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報を除く。
- (3) 本市の機関の要請を受けて、公にしないとの条件で個人又は法人等から任意に提供された情報であつて、当該個人又は当該法人等における通例として公にしないこととされているものその他の当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの。ただし、人の生命、身体、健康、生活又は財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報を除く。
- (4) 会派又は議員の活動に関する情報であつて、公にすることにより、会派又は議員の活動に著しい支障を及ぼすおそれがあるもの
- (5) 市会及び市会以外の本市の機関並びに国等（国、独立行政法人等、他の地方公共団体、地方独立行政法人及び大阪市住宅供給公社をいう。以下同じ。）の内部又は相互間における審議、検討又は協議に関する情報であつて、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの
- (6) 市会若しくは市会以外の本市の機関又は国等が行う事務又は事業に関する情報であつて、公にすることにより、次に掲げるおそれその他当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの

ア 監査、検査、取締り、試験又は租税の賦課若しくは徴収に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれ又は違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を困難にするおそれ

イ 契約、交渉又は争訟に係る事務に関し、市会若しくは市会以外の本市の機関又は国等の財産上の利益又は当事者としての地位を不当に害するおそれ

ウ 調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ

エ 人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ

オ 本市が経営する企業に係る事業に関し、その企業経営上の正当な利益を害するおそれ

(7) 公にすることにより、人の生命、身体、財産又は社会的な地位の保護、犯罪の予防、犯罪の捜査その他の公共の安全と秩序の維持に支障が生じると認められる情報

(8) 前各号に掲げるもののほか、法令等の規定の定めるところにより公開しないこととされ、若しくは公にすることができないと認められる情報又は法律若しくはこれに基づく政令の規定による明示の指示等により公にすることができないと認められる情報

(部分公開)

第8条 議長は、公開請求に係る公文書の一部に非公開情報が記録されている場合において、非公開情報が記録されている部分を容易に区分して除くことができるときは、公開請求者に対し、当該部分を除いた部分につき公開しなければならない。ただし、当該部分を除いた部分に有意の情報が記録されていないと認められるときは、この限りでない。

2 公開請求に係る公文書に前条第1号の情報（特定の個人を識別することができるものに限る。）が記録されている場合において、当該情報のうち、氏名、生年月日その他の特定の個人を識別することができることとなる記述等の部分を除くことにより、公にしても、個人の権利利益が害されるおそれがないと認められるときは、当該部分を除いた部分は、同号の情報に含まれないものとみなして、前項の規定を適用する。

(公文書の存否に関する情報)

第9条 公開請求に対し、当該公開請求に係る公文書が存在しているか否かを答えるだけで、非公開情報を公開することとなるときは、議長は、当該公文書の存否を明らかにしないで、当該公開請求を拒否することができる。

(公開請求に対する措置等)

第10条 議長は、公開請求に係る公文書の全部又は一部を公開するときは、その旨の決定をし、公開請求者に対し、その旨及び公開の実施に関し議長が定める事項を書面により通知しなければならない。

2 議長は、公開請求に係る公文書の全部を公開しないとき（前条の規定により公開請求を拒否するとき及び公開請求に係る公文書を保有していないときを含む。以下同じ。）は、公開をしない旨の決定をし、公開請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

3 議長は、前2項の規定により公開請求に係る公文書の全部又は一部を公開しないときは、公開請求者に対し、当該各項に規定する書面によりその理由を示さなければならない。この場合において、当該理由の提示は、公開しないこととする根拠規定及び当該規定を適用する根拠が、当該書面の記載自体から理解され得るものでなければならない。

(公開決定等の期限)

第11条 前条第1項又は第2項の決定（以下「公開決定等」という。）は、公開請求があった日の翌日から起算して14日以内にしなければならない。ただし、第6条第2項の規定により補正を求めた場合にあっては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、議長は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、公開決定等をすべき期間を、同項に規定する期間が満了する日の翌日から起算して30日を限度として延長することができる。この場合において、議長は、公開請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を書面により通知しなければならない。

(公開決定等の期限の特例)

第12条 公開請求に係る公文書が著しく大量であるため、公開請求があった日の翌日から起算して44日以内にそのすべてについて公開決定等を行うことにより事務

の遂行に著しい支障が生ずるおそれがある場合には、前条の規定にかかわらず、議長は、公開請求に係る公文書のうちの相当の部分につき当該期間内に公開決定等をし、残りの公文書については相当の期間内に公開決定等をすれば足りる。この場合において、議長は、同条第1項に規定する期間内に、公開請求者に対し、次に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

(1) 本条を適用する旨及びその理由

(2) 残りの公文書について公開決定等をする期限

(議長及び副議長がともに欠けた場合の特例)

第13条 任期満了、解散その他の事由により議長及び大阪市会副議長がともに欠けている期間がある場合には、当該期間は、前2条の規定により公開決定等をすべき期間に算入しない。

(第三者に対する意見書提出の機会の付与等)

第14条 公開請求に係る公文書に本市、国等及び公開請求者以外のもの（以下この条、第19条及び第20条において「第三者」という。）に関する情報が記録されているときは、議長は、公開決定等をするに当たって、当該情報に係る第三者に対し、公開請求に係る公文書の表示その他議長が定める事項を通知して、意見書を提出する機会を与えることができる。

2 議長は、第三者に関する情報が記録されている公文書を公開しようとする場合であって、当該情報が第7条第1号ただし書、第2号ただし書又は第3号ただし書に規定する情報に該当すると認められるときは、第10条第1項の決定（以下「公開決定」という。）に先立ち、当該第三者に対し、公開請求に係る公文書の表示その他議長が定める事項を書面により通知して、意見書を提出する機会を与えなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

(1) 第三者に関する情報が第7条第1号ア又はウに規定する情報に該当すると認められる場合において、公にしても、当該第三者の権利利益が害されるおそれがないと認められるとき

(2) 第三者の所在が判明しないとき

3 議長は、前2項の規定により意見書の提出の機会を与えられた第三者が当該公文書の公開に反対の意思を表示した意見書を提出した場合において、公開決定を

するときは、公開決定の日と公開を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならない。この場合において、議長は、公開決定後直ちに、当該意見書（第18条及び第19条において「反対意見書」という。）を提出した第三者に対し、公開決定をした旨及びその理由並びに公開を実施する日を書面により通知しなければならない。

（公開の実施）

第15条 公文書の公開は、文書又は図画については閲覧又は写しの交付により、電磁的記録についてはその種別、情報化の進展状況等を勘案して議長が定める方法により行う。ただし、閲覧の方法による公文書の公開にあつては、議長は、当該公文書の保存に支障を生ずるおそれがあると認めるとき又は第8条の規定により公文書の一部を公開するときその他正当な理由があるときは、その写しにより、これを行うことができる。

（他の法令等との調整等）

第16条 この条例の規定は、法律の規定により、行政機関の保有する情報の公開に関する法律の規定を適用しないこととされている書類等については、適用しない。

2 この条例の規定は、他の法令等の規定により、公文書の閲覧若しくは縦覧又は公文書の謄本、抄本その他の写しの交付（以下「公文書の閲覧等」という。）を受けられるときは、適用しない。ただし、公文書の閲覧等を受けられるものの範囲又は期間若しくは方法等が限られている場合において、当該法令等がその範囲外のものに対する公文書の閲覧等又は異なる期間若しくは方法等による公文書の閲覧等を禁止する趣旨でないと認められるときは、この限りでない。

3 この条例の規定は、大阪市会図書室において管理されている公文書であつて、一般の利用に供されているものについては、適用しない。

（手数料等）

第17条 公文書の公開に係る手数料は、無料とする。

2 第15条の規定により公文書の写しの交付（電磁的記録にあつては、これに準ずるものとして議長が定める方法を含む。）を受けられるものは、当該写しの作成及び送付（電磁的記録にあつては、これらに準ずるものとして議長が定めるものを含む。）に要する費用を負担しなければならない。

第3章 審査請求

第1節 審査請求の手続

(審理員による審理手続の適用除外)

第17条の2 公開決定等又は公開請求に係る不作為に係る審査請求については、行政不服審査法（平成26年法律第68号）第9条第1項ただし書の規定により、同項本文の規定は適用しない。

(審査請求があったときの手続)

第18条 公開決定等又は公開請求に係る不作為について行政不服審査法による審査請求があったときは、議長は、次の各号のいずれかに該当する場合を除き、速やかに大阪市会情報公開審査委員会（以下「委員会」という。）の意見を聴いて、当該審査請求に対する裁決を行わなければならない。

- (1) 審査請求が不適法であり、却下する場合
- (2) 審査請求の全部を認容し、当該審査請求に係る公文書の全部を公開することとする場合（当該公文書の公開について反対意見書が提出されている場合を除く。）

(意見を求めた旨の通知)

第19条 議長は、前条の規定により委員会の意見を求めたときは、次に掲げる者に対し、その旨を通知しなければならない。

- (1) 審査請求人及び参加人（行政不服審査法第13条第4項に規定する参加人をいう。以下同じ。）
- (2) 公開請求者（公開請求者が審査請求人又は参加人である場合を除く。）
- (3) 当該審査請求に係る公文書の公開について反対意見書を提出した第三者（当該第三者が審査請求人又は参加人である場合を除く。）

(第三者からの審査請求を棄却する場合等における手続)

第20条 第14条第3項の規定は、次の各号のいずれかに該当する裁決をする場合について準用する。

- (1) 公開決定に対する第三者からの審査請求を却下し、又は棄却する裁決
- (2) 審査請求に係る公開決定等（公開請求に係る公文書の全部を公開する旨の決定を除く。）を変更し、当該審査請求に係る公文書を公開する旨の裁決（第三

者である参加人が当該公文書の公開に反対の意思を表示している場合に限る。)

第2節 大阪市会情報公開審査委員会

(設置)

第21条 第18条の規定による意見の求めに応じ審査請求について調査審議するため、委員会を置く。

- 2 委員会は、前項に定めるもののほか、市会の情報公開制度の運営に関する重要事項について、議長からの意見の求めに応じて調査審議するとともに、議長に意見を述べることができる。

(組織等)

第22条 委員会は、委員3人以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者その他議長が適当と認める者のうちから議長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

第3節 委員会の調査審議の手続

(委員会の調査権限)

第23条 委員会は、必要があると認めるときは、議長に対し、公開決定等に係る公文書の提示を求めることができる。この場合においては、何人も、委員会に対し、その提示された公文書の公開を求めることができない。

- 2 議長は、委員会から前項の規定による求めがあったときは、これを拒んではない。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、議長に対し、公開決定等に係る公文書に記録されている情報の内容を委員会の指定する方法により分類又は整理した資料を作成し、委員会に提出するよう求めることができる。
- 4 第1項及び前項に定めるもののほか、委員会は、審査請求に係る事件に関し、審査請求人、参加人又は議長（以下「審査請求人等」という。）に意見書又は資料の提出を求めること、適当と認める者にその知っている事実を陳述させること

その他必要な調査をすることができる。

(意見の陳述等)

第24条 委員会は、審査請求人等から申立てがあったときは、当該審査請求人等に口頭で意見を述べる機会を与えることができる。ただし、委員会が、その必要がないと認めるときは、この限りでない。

2 前項本文の場合においては、委員会は、審査請求人又は参加人が補佐人とともに出頭することを許可することができる。

3 委員会は、その指定する相当の期間内に審査請求人等が口頭で意見を述べることができないときは、当該審査請求人等に対し、口頭で意見を述べる機会に代えて、相当の期間を定めて当該期間内に意見書を提出するよう求めることができる。

(意見書等の提出)

第25条 審査請求人等は、委員会の許可を得て、意見書又は資料を提出することができる。ただし、委員会が意見書又は資料を提出すべき相当の期間を定めたときは、その期間内にこれを提出しなければならない。

(委員による調査手続)

第26条 委員会は、必要があると認めるときは、その指名する委員に、第23条第1項の規定により提示された公文書を閲覧させ、同条第4項の規定による調査をさせ、又は第24条第1項本文の規定による審査請求人等の意見の陳述を聴かせ、若しくは同条第3項の規定により当該意見の陳述に代えて提出された意見書を閲覧させることができる。

(提出資料の写しの送付等)

第27条 委員会は、第23条第3項若しくは第4項、第24条第3項又は第25条の規定による意見書又は資料の提出があったときは、当該意見書又は資料の写し（電磁的記録（電子計算機による情報処理の用に供されるものに限る。以下この項、次項及び第5項において同じ。）にあっては、当該電磁的記録に記録された事項を記載した書面）を当該意見書又は資料を提出した審査請求人等以外の審査請求人等に送付するものとする。ただし、第三者の利益を害するおそれがあると認められるときその他正当な理由があるときは、この限りでない。

2 審査請求人等は、委員会に対し、委員会に提出された意見書又は資料の閲覧（電磁的記録にあっては、記録された事項を委員会が定める方法により表示した

ものの閲覧)又は写しの交付(電磁的記録にあっては、記録された事項を記載した書面の交付。以下この条において同じ。)を求めることができる。この場合において、委員会は、第三者の利益を害するおそれがあると認めるときその他正当な理由があるときでなければ、その閲覧又は写しの交付を拒むことができない。

3 委員会は、第1項の規定による送付をし、又は前項の規定による閲覧をさせ、若しくは写しの交付をしようとするときは、当該送付又は閲覧若しくは写しの交付に係る意見書又は資料を提出した審査請求人等の意見を聴かなければならない。ただし、委員会がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

4 委員会は、第2項の規定による閲覧又は写しの交付について、日時及び場所を指定することができる。

5 第2項の規定により委員会に提出された意見書又は資料の写しの交付を受けるものは、当該写しの作成及び送付(電磁的記録にあっては、記録された事項を記載した書面の作成及び送付)に要する費用を負担しなければならない。

(調査審議手続の非公開)

第28条 委員会の行う調査審議の手続は、公開しない。ただし、第21条第2項の規定による調査審議の手続については、特段の支障がない限り、公開して行うものとする。

(意見を記載した書面の送付等)

第29条 委員会は、第18条の規定により議長に意見を述べたときは、当該意見を記載した書面の写しを審査請求人及び参加人に送付するとともに、当該意見の内容を公表するものとする。

(委任)

第30条 この章に定めるもののほか、委員会の組織及び運営並びに調査審議の手続に関し必要な事項は、議長が定める。

第4章 情報提供施策等

(情報提供施策等)

第31条 市会は、この条例の目的を達成するため、第2章に定める公文書の公開のほか、市会の諸活動に関する情報の提供に係る施策等の充実に努めるものとする。

2 事務局の職員は、市会の諸活動に関する情報の提供に関する事務を行うに当た

っては、この条例の趣旨にのっとり、市民等が必要とする情報が的確に提供されるように意を用いなければならない。

(公文書を公開しない場合における情報の提供等)

第31条の2 議長は、公開請求に係る公文書の全部又は一部を公開しない旨の決定を行う場合（第9条の規定により公開請求を拒否する場合を除く。）であっても、この条例の目的を達成するため必要と認めるときは、非公開情報を公開しない方法により、必要な情報の提供を行うものとする。

2 議長は、第2章の規定により公開した情報及び前項の規定により提供した情報について、市民等が公開請求を行うことなく得ることができるよう適切な措置を講ずるとともに、広く市民一般に公表する必要があると認められるときは、当該情報を公表するものとする。

(公文書の管理)

第31条の3 議長は、この条例の適正かつ円滑な運用に資するため、大阪市公文書管理条例（平成18年大阪市条例第15号）の定めるところにより、公文書を適正に管理しなければならない。

(運用状況の公表)

第32条 議長は、毎年1回、この条例の運用の状況を取りまとめ、公表するものとする。

(施行の細目)

第33条 この条例の施行について必要な事項は、議長が定める。

第5章 罰則

(罰則)

第34条 第22条第4項の規定に違反して秘密を漏らした者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

附 則（平13.10.1施行、平13.9.21議長決定）（抄）

(施行期日)

1 この条例の施行期日は、議長が定める。

(経過措置)

2 この条例は、この条例の施行の日以後に事務局の職員が職務上作成し、又は取

得した公文書について適用する。

附 則

- 1 この条例は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この条例による改正後の大阪市会情報公開条例（以下「改正後の条例」という。）第3章の規定は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後にされた公開決定等（改正後の条例第11条第1項に規定する公開決定等をいう。以下同じ。）又は施行日以後にされた公開請求（改正後の条例第6条第1項に規定する公開請求をいう。以下同じ。）に係る不作為に係る審査請求について適用し、施行日前にされた公開決定等又は施行日前にされた公開請求に係る不作為に係る異議申立てについては、なお従前の例による。

改 正

平14. 9.30条例63	平16. 3. 2条例3	平17. 3.30条例76
平17. 5.30条例55	平18. 3.31条例10	平18. 9.21条例76
平25. 9.30条例114	平26.12. 1条例135	平28. 3. 2条例5
令5. 2.27条例1		

資料 4

大阪市会情報公開審査委員会 委員名簿

(任期 2 年 R3. 10. 1～5. 9. 30)

会 長	つるた まきのり 鶴田 勝紀	元大阪市会事務局長 (令和 3 年 10 月 1 日就任)
-----	----------------------------------	----------------------------------

委 員 (会長代行)	あたら ひろふみ 阿多 博文	弁護士 (令和 3 年 10 月 1 日就任)
---------------	----------------------------------	----------------------------

委 員	ようふ ともみ 養父 知美	弁護士 (令和 3 年 10 月 1 日就任)
-----	---------------------------------	----------------------------